

テーマは「未来へのまなざし」。
情報の共有がスタートラインです。

教育が人材をはぐくみ、人材が地域や町を支える…。
その営みは次代へと引き継がれていくものです。
現状と将来を見据え、子どもたちのために必要なものとは何か。
いま、この町で、一人ひとりの大人が真剣に考えるべき岐路に立っています。

小学校では「外国語活動」が取り入れられます。
来年度から全面实施され、およそ30年ぶりに授業時間が増え、
政府は、国際的に見た日本の学力低下に危機感を覚え、学習指導要領を改訂。
しかし、その内側は時代とともに変わってきています。
いつもとは変わりのない校舎の風景に、変化など感じないわたしたち。

子どもたちにいま何が求められ、何が足りないのか。
周囲はどうかかわればいいのか。
目を向けなければ、何も見えてきません。
知らなければ、考えることも、意識や視点を変えることもないでしょう。

のどかな上野の通学路に、
子どもたちと大人の会話が響きます。
「家庭や地域に学校の姿や取り組みを知ってほしい」
そんな上野小の思いが詰まった「学校だより上野っ子」。
昨年からは保護者だけでなく、校区内の全7百世帯に届けられ、
その情報共有が実を結び始めています。
学校から校区全域に発信されるメッセージは、
児童にこそがれる地域のあたたかいまなざしとなって、
少しずつ返ってきています。

「今日は社会科見学の日やろ、どこ行くん？」

「福岡タワーばい」
「一番上まで登るんよー」

「そりゃー福智山よりキツイかもしれんねー」

上野小4年生が待ちに待った11月9日の朝、
登校での会話は社会科見学の話で持ちきりでした。
福岡タワーやプラネタリウムなど、福岡市内への見学を楽しみにしていた子どもたち。「学校だより上野っ子」で学校行事を把握していた城戸健二さん(上野)が、散歩の途中で顔なじみの子にやさしく声をかけます…。ほほ笑ましい場面から、すがすがしい1日が始まりました。

特集

未来へのまなざし

福智の教育をみつめて